

浜松バッハ研究会 コンサート

とっても *Bach* な午後をあなたに

2007年11月10日(土)

浜松市 福祉交流センターホール



ライプチヒ 聖トーマス教会

浜松バッハ研究会 コンサート プログラム

カンタータ 140番 「目覚めよ、と われらを呼ぶ声」

小ミサ曲 イ長調 BWV234 (浜松初演)

== 休憩15分 ==

カンタータ 147番 「心と口と行いと生命」

主 催 : 浜松バッハ研究会 共 催 : 豊橋バッハアンサンブル

後 援 : 浜松市、豊橋市、(財)浜松市文化振興財団、(財)豊橋文化振興財団
静岡県合唱連盟、浜松市合唱連盟、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社

ごあいさつ

皆様、本日は浜松バッハ研究会・豊橋バッハアンサンブルの演奏会によろそおいでくださいました。思い起こせば1974年10月25日、本日の演奏会場から近い当時のカトリック教会聖堂にて浜松で初めての本格的なバッハの演奏会が浜松バッハ研究会の前身の一つであるポリフォニカ・アンブロジーナーとカペラ・アカデミカの手によって開催されました。その日演奏されたのが本日の曲目の一つカンタータ140番「目覚めよ、とわれらを呼ぶ声」でした。爾来33年バッハの音楽は浜松の町になり続けていますが、この間に浜松の音楽文化の様相は大きく変わりました。浜松交響楽団の結成、アクトシティの建設、そして浜松国際ピアノコンクールの開催等々まさに楽器の町から音楽の町へと立派な変貌を遂げました。私どもの活動もこの音楽文化の「目覚め」の一翼を担わせていただいたのではないかと思います。

1985年に設立された浜松バッハ研究会も早いもので創立22年になろうとしています。三澤洋史先生という立派な指導者に恵まれ、2000年から2001年の世紀の変わり目にはドイツ演奏旅行を実施しました。下の写真はバッハ自身が永年カントール(音楽監督)の職務を果たしたドイツ・ライプチヒ市の聖トーマス教会・聖歌隊席での私共のカンタータ演奏風景です。本日演奏する3曲ともまさにこの場でバッハ自身により初演されたのです。

私共はこれからも末永くバッハを中心としたレパートリーを、この地で紹介していきたいと願っておりますので皆様方からの引続きのご支援を切にお願い申し上げます。

どうぞ本日の、私達の心からの「とつても *Bach* な午後」をお楽しみ下さい。

浜松バッハ研究会 代表 河野周平



2001年1月5日 ライプチヒ・聖トーマス教会にて

出演者 プロフィール

指揮者：三澤洋史（みさわ ひろふみ）



群馬県出身。国立音楽大学声楽科卒業後、指揮に転向。1984年ベルリン芸術大学指揮科を首席で卒業。バッハに深く傾倒しており、マタイ、ヨハネ両受難曲、口短調ミサ曲など全て暗譜でレパートリーに有する。2000年暮れから2001年初めにかけての浜松バッハ研究会ドイツ演奏旅行では、エアフルト、ハレでの口短調ミサ曲成功に加え、ライブチ聖トマス教会の新年音楽礼拝を聖トマス教会聖歌隊に代わり務めた。1999年より2003年までバイロイト音楽祭にて祝祭合唱団の指導スタッフの一員として従事。この経験を生かし、ワーグナーのスペシャリストとして講演や放送の分野でも活躍。2001年9月からは新国立劇場合唱団合唱指揮者に就任。新国立劇場の全公演に合唱指揮者として関わる。2003年9月からの一年間は音楽ヘッド・コーチも兼任。声楽を伴うあらゆる様式の音楽に精通。言葉と音楽、ドラマと音楽の接点を追求している。作品にミュージカル「おにころ」「愛はてしなく」「ナディーヌ」などがある。東京藝術大学、愛知県立芸術大学、京都教育大学非常勤講師や、名古屋芸術大学客員教授、及び滋賀県立芸術劇場びわ湖ホール専任指揮者などを経て、現在新国立劇場合唱団指揮者、洗足学園音楽大学客員教授。東京バロックスコラーズ音楽監督、浜松バッハ研究会、志木第九の会、名古屋モーツァルト200合唱団常任指揮者。

ソプラノ：飯田みち代（いいだ みちよ）



京都大学教育学部教育心理学科卒業、故河合隼雄氏の薫陶を受ける。声楽を故引田リエコ氏、M.ランティエリ氏、S.ギオーネ氏、C.スタニシェフ氏に師事。またトゥッチ氏・ライモンディ氏・コラデッティ氏のマスターコース修了。1990年日本イタリア声楽コンクール金賞受賞以来、飯塚新人コンクール大賞、日伊声楽コンクール第2位受賞。朝日ABCコンサート優秀賞受賞。NHK新人オーディション合格。「ヘンゼルとグレーテル」グレーテルでオペラデビュー。これまでに「椿姫」ヴィオレッタ、「リゴレット」ジルダ、「ランメルモールのルチア」ルチア、「愛の妙薬」アディーナ、「セヴィリアの理髪師」ロジーナ、「こうもり」ロザリンデ、ヴォルフ＝フェラーリ「スザンナの秘密」スザンナ、「ねじの回転」家庭教師、「ラ・ボエーム」ミミ、「夕鶴」つう、「魔笛」夜の女王等に出演。「第九」や「メサイア」、「天地創造」など交響曲、宗教曲などのソリストを務め、日本だけでなくイタリア、ドイツ、オーストリアにおいてもコンサートやリサイタルなどに出演。幅広く活躍している。ウィーン在住、二期会会員。

アルト：渡部菜津美（わたなべ なつみ）



東京音楽大学声楽演奏家コース卒業。父・渡部成哉からオペラ、オラトリオ、歌曲など声楽全般にわたる指導を受け、これまでに川上洋司氏・井坂恵氏に師事。高校時代に合唱として参加したビゼー「カルメン」、プッチーニ「つばめ」（日本初演）に始まり、大学在学中にはプッチーニ「修道女アンジェリカ」にてオペラデビューをはたす。浜松市民オペラ合唱団公演「オペラ寺子屋『カルメン』」のタイトルロールを歌ったほか、市川オペラ振興会 SPRING GALA、学習院輔仁会音楽部合唱団の演奏会にソリストとして出演。現在、二期会準会員。東京音楽大学合唱研究員。

テノール：神田豊壽（かんだ とよひさ）



愛知県立芸術大学大学院修了。二神二郎氏に師事。これまで出演したオペラは「夕鶴」とひょう、「修善寺物語」五郎、「袈裟と盛遠」義清、「じゅごんの子守唄」宗晴、「ドン・ジョバンニ」オッターヴィオ、「魔笛」タミーノ、「フィガロの結婚」バジリオ、「カルメン」ホセ。また、名古屋・東京で松尾葉子プロデュース、文楽様式による「異説・カルメン情話」のホセ役を人形振りで出演。やわらかく甘美な母音を築き上げる事を生涯の目標とし極端な感情移入を避け、聴衆に判断を任せることで自己表現可能な宗教音楽をもっとも得意の分野としている。ベートーヴェン「第九」、ヘンデル「メサイア」の独唱など名古屋を中心にオペラ、オーケストラとの共演、コンサート活動を続ける。今年1月には碧南でモーツァルト「レクイエム」を指揮するなど指揮活動にも力を注いでいる。名古屋大学コール・グランツェをはじめ数多くの大学合唱団や一般合唱団を指導。さらに、市民の第九・愛知県合唱連盟・三重県東員町の第九指導も受け持っている。

バス：塩入功司（しおいり こうじ）



洗足学園大学音楽学部声楽科卒、同大学院音楽研究科声楽専攻修了。二期会オペラスタジオ第43期マスタークラスを優秀賞を受賞し修了。第2回万里の長城杯国際音楽コンクール第3位。第34回、第37回イタリア声楽コンクールソ入選。これまでに「二期会新進声楽家のタベ」、ベートーヴェン「第九」、宮城道雄「交声曲 日蓮」等のソリストを務める他、モーツァルト「コシ・ファン・トゥッテ」グリエルモ、「魔笛」パパゲーノ/モノスタス、ベートーヴェン「レオノーレ」ドン・フェルナンド、ヴェルディ「マクベス」伝令、プッチーニ「蝶々夫人」役人、ビゼー「カルメン」モラレス、ヤナーチェク「死者の家から」鍛冶屋の囚人/炊事番の囚人、三木稔「じょうるり」言次、等に出演。植木桂、福島明也の両氏に師事、二期会会員。

コンサート・ミストレス：北川靖子（きたがわ きよこ）

W. シュタフォンハーゲン教授に師事。東京芸術大学卒業。1971年、オーストリア国立ウィーン音楽大学入学、ヴァイオリンを F. サモヒール教授に、室内楽を F.ホレチェック教授に師事。1975年、ウィーン音楽大学を全教授一致の最優秀で卒業。ザルツブルク・ミラベル宮殿、東京でリサイタル。1976年、ハンブルク交響楽団に入団、コンサートマスターに就任。1981年、ハンブルク市文化局主催コンサートでリサイタル。1985年12月～91年12月、姉・北川暁子と25回の「ドゥオのタベ」を開催。1987年、東京でリサイタル。1989年、北川暁子、千本博愛と「セルヴェ・トリオ」を結成、以後毎年演奏会を開催。1992年以降は北川暁子との「ソナタのタベ」を毎年開催している。現在、2001年11月に高松に設立された瀬戸フィルハーモニー交響楽団コンサートミストレス。浜松バッハ研究会・管弦楽団には1988年の「マタイ受難曲」以来、ほとんどの演奏会に参加。

オルガン：花井 淑（はな い とし）

三重県桑名市生まれ。名古屋音楽大学音楽学部器楽科ピアノ専修卒業。同大学卒業演奏会、三重県新人演奏会に出演。ピアノを水谷百合子、野田順子、水谷みち子、藤井賀寿恵の諸氏に師事。また大学在学中より名古屋・カトリック五反城教会に於いてパイプオルガンの勉強を始め、オルガンを住山玖爾子、本田七瀬、故・F. ボーンの諸氏に師事。また、Z. サットマリー、故・A. シェーンシュテット、H. フォーゲルの諸氏によるオルガンマスタークラスに参加。1982年～1986年、名古屋音楽大学嘱託研究員を経て、現在、カトリック五反城教会オルガニスト、五反城教会オルガニスト養成コース講師。日本オルガニスト協会、日本オルガン研究会、立教大学教会音楽研究所友の会、名古屋バロック音楽協会各会員。ソリストおよび通奏低音奏者として活躍中。2000年10月、岐阜県県民ふれあい会館サラマンカホールに於いて、故・高円宮殿下、同妃殿下のホールご視察の際には御前演奏をした。浜松バッハ研究会演奏会には1996年の「マタイ受難曲」以来、ドイツ演奏旅行（2000年末～2001年始にかけて）も含めてほとんど毎回参加している。三重県桑名市在住。

浜松バッハ研究会管弦楽団

浜松交響楽団、浜松室内楽愛好会、カペラ・アカデミカ、浜松バロック・アンサンブル、ヤマハ吹奏楽団などから、バッハおよびバロック音楽をこよなく愛する有志が集い、バッハ研究会公演の度に組織される。少ない練習にもかかわらずレベルの高いアンサンブルで好評を得ている。

1 st Violin	北川靖子 小沢規子 東儀 温 中林尚之	
2 nd Violin	小野弘達 田邑利香 松山礼美	
Viola	小林 勝 山内絵理 福本はる奈	
Cello	神農清志 山内 明	Contra Bass 田邑元一
Flute	中林尚子 福家真史	
Oboe	村瀬正巳 大橋弥生 久米慶子	
Fagotto	曾布川利貞	
Horn	末永雄一郎	Trumpet ロジャー・マナーズ

浜松バッハ研究会合唱団

バッハ生誕300周年の1985年に結成され、マタイ受難曲、ヨハネ受難曲、口短調ミサ曲などの大作や、クリスマス・オラトリオ、カンタータ、モテットなどを取り上げ、管弦楽団と共に上演している。2000年にドイツ演奏旅行を行いライプチヒの聖トーマス教会で演奏した。常任指揮者としてバッハの権威である新国立劇場指揮者の三澤洋史氏を招き、バッハの音楽を深く学びつつその魅力を多くの皆様にお伝えすべく、姉妹団体である豊橋バッハアンサンブルと共に活動を続けている。

豊橋バッハアンサンブル

バッハを歌いたい、だけど毎週浜松まで出かけるのは無理…という豊橋在住の人達が集まり、1994年8月にできた合唱団が豊橋バッハアンサンブルで、いわば浜松バッハ研究会の分身。毎週豊橋で練習し、三澤先生の練習があるときは、浜松に出かけて、浜松バッハ研究会と一緒に参加している。

Soprano	浅野朋子、今村陽子、金子ますみ、河合良子、川田咲度、丹羽彩子、丹羽多美子、萩野美雪、長谷川悠、早川美香、三宅ゆりの、向井智恵
Alto	安藤美津恵、伊藤道子、鬼頭計枝、國井みさえ、黒田浩子、鈴木理恵、長谷川明子、細倉ゆずる、馬淵京子、山田セキ子
Tenor	飯田素子、川口 強、河野周平、柴原貞幸、丹羽哲也
Bass	安藤佑治、萩野 潔、橋本昇平、長谷川正仁、安井研一、横山 茂

演奏会スタッフ 大石泰由、河野善子、河野真剛、金子恒江、小貴勇作、鈴木秀明

目覚めよと呼ぶ声

三澤洋史

高校生の時、友達から借りた一枚のレコードが、僕とバッハの本当の出遭いだったのかも知れない。それ以前にもバッハは聴いていた。両親が姉のために買ってくれた音楽全集の中に入っていたG線上のアリアや、メニューインの弾くヴァイオリン協奏曲ホ長調などに親しんでいた。でも、それは恐らく決定的な出遭いというものではなかった。何故なら、まだ僕にとってバッハが“特別な作曲家”とはなっていなかったから。

そのレコードとは、カール・リヒターの弾くバッハ・オルガン曲集だった。有名なトッカータとフーガなどにまじって、ある小曲が僕の心を捉えた。それはオルガン・コラールの「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」だった。

まず僕は、このタイトルに惹かれた。当時僕はまだ教会に足を踏み入れてはいなかったが、この頃、自分の内部に強烈なる欲求が芽生えていた。それは、この世の全てのものを超越する存在を信じたいという欲求だった。そしてその存在が与えてくれる「この世的」でない価値観に従って生きたい、自分を律したいと願っていたのだ。そうした当時の自分にもしタイトルをつけるとすれば、まさに「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」だった。

曲は何の変哲もなく始まる。しばらく行くと突然ドミソという分散和音的旋律が響き渡る。コラールのメロディーだ。ただのドミソだが、これが啓示的だ。まるで地上から一気に天上的世界に駆け上っていくような効果は、ワーグナーも熟知していて、彼の最後の神聖舞台祝典劇「パルジファル」の前奏曲冒頭主題として使用している。

僕はこの曲を何度聴いたことか。友人は高校生のくせにマーラーの交響曲などを好んで聴いていたマニアックな奴だったが、どうもバッハにはピンとこなかったと見えて、僕がこのレコードに熱狂したことを知ると、

「安く売ってあげようか？」

と言った。僕は勿論それを手に入れて自分の宝物とした。

後で知った事だが、この曲はカンタータ第140番の中の第4曲目からオルガン・ソロ用に編曲されたものということである。ただし、僕がそのカンタータのレコードを買うのはずっと後になってからである。

カンタータ第140番は、冒頭の大規模な合唱曲、第4曲目、終曲に例のドミソのコラールが使われている、いわゆるコラール・カンタータだ。本当は冒頭の合唱曲の歌詞が「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」という歌詞なので、厳密に言うと有名な第4曲目は、「シオンは見張りが歌っているのを聞く」とでも呼ばれなければならないのだが、例えば「死者のためのミサ曲」のことを、最初の歌詞 Requiem Aeternam(永遠の安息を)から取ってレクイエムと呼んだりするのと一緒で、このコラール自体が「目覚めよと呼ぶ声が聞こえ」と呼ばれているから、このコラールを使用した曲は、みんなそう呼ばれてもいいのであろう。

カンタータ第140番は、楽想の豊富さの意味でも、まとまりの意味でも、非の付け所のないカンタータの傑作だ。第1曲目と第4曲目のような楽曲形式はコラール幻想曲と呼ばれる。これは、一見コラールのメロディーとは無関係な主題で始まり、ひとしきり曲が進んでいく中に、コラールのメロディーが1フレーズずつ最初のメロディーとからんで演奏される。このからみ方がバッハの場合絶妙なのだ。同じ曲を扱っていながら第1曲目と第4曲目とは全然違う世界が展開する。

料理に「なんとかずくし」というのがあるが、ひとつの食材を使って名人シェフが「え？これって、同じ食材？」と思うような様々な料理を作り出すのと似ている。後は皆さんに直接味わっていただきたいと思うが、ちなみに、第1曲目はソプラノ・パートに、第4曲目はテノール・パートにコラールのメロディーがあてがわれている。終曲は、「はい、これが元曲です。」と言わんばかりのシンプルなコラール。

僕が最初買ったカンタータのレコードと言えば、カール・リヒターの指揮した第106番「神の時はいと良き時」だ。この曲にはいろいろ思い入れがあるのだが、その話はまたいつか機会がある時にしよう。その次に買ったのが本日演奏する第147番だ。指揮は同じリヒター。

このカンタータの中で2度に渡って出てくるのが、有名な「主よ、人の望みのよろこびよ」だ。これもピアノ用に編曲されてアンコールに弾かれたりしている。

こうした作品に触れると、バッハという作曲家がいかに大衆の心の琴線に触れる素晴らしいメロディーを紡ぎ出す事が出来るかと証明しているように僕には感じられる。

「主よ、人の望みのよろこびよ」もコラール幻想曲だ。このドレミソファファラソ、ソドシドソミドレミのメロディーが作り出す雰囲気素晴らしさ！希望に溢れ、どこか人なつく心にしみる。それでいて後から登場するコラールのメロディーとも見事に溶け合い、互いに交歓しながら進んでいく。このような芸当は、ただ天才のみに許されるものだ。

本来、天才の作品というものは、その比類なき高み故に大衆性とは相容れない要素を持っている。バッハも晩年、シャイベという批評家を始めとして、晦渋であるというそしりをまぬがれず、より平易な古典派の作風への移行期にあって、生前すでに人々から忘れ去られていく運命の中にいた。しかし、皮肉な事に、バッハほど大衆と共に歩もうと努力した人もないのだ。

宗教改革の旗手マルティン・ルターが編纂し、大衆に歌わせたコラールという単純な楽曲は、それだけでは芸術家の創作への意欲を掻き立てない。でもバッハは、それをコラール幻想曲という形にして、自分の創作と大衆性との架け橋を造ろうとした。それが今日、このような名曲として人々に親しまれている理由になっているのだ。

しかし間違っではいけないのは、バッハのこうした名曲の場合、決して大衆に気に入られようとして書いているわけではないのだ。志としては大衆に向いているかも知れないが、創作においては、バッハの作品の全てに貫く気品と格調の高さは決して失われてはいない。むしろこれらの作品は、口当たりの良さを入り口としてとてつもない高い世界とつながっているのである。

一見何の変哲のない音型を使って、何の変哲のない展開をしているように見えるが、アナリーゼをしていくと、これ以外の組み合わせはあり得ないということに気がついてゾッとすることが、バッハの場合にはよくある。

バッハの音楽に触れる事で、我々は日常の中に生きていながら容易に非地上的な秩序の世界、あるいは高みの世界をかいま見る事が許されるのである。

その後僕はクリスチャンになった。それがバッハだけのお陰とは言わないけれど、バッハの音楽が、僕に“高み”というものの存在を教えてくれ、それが超越者への認識につながっていったことは否定出来ない。

この歳になっても、僕が忙しい日常生活の最中であって至高なる存在について考えることを忘れそうになる時、バッハの音楽に触れると常に聞こえてくるのだ。

「目覚めよ！」と呼ぶ声が……。

歌詞対訳

カンタータ第 140 番 《目覚めよ、とわれらに呼ばれる物見らの声》 BWV140

初演 1731年11月25日(三位一体節後第27日曜日)
歌詞作者 不明(ドイツ語)
福音書章句 マタイ伝 25.1-13
使用コラール フィーリップ・ニコライ(1556-1608)による同名コラール全3節
編成 独唱(ソプラノ、テノール、バス)、4部合唱、ホルン、オーボエ2、
オーボエ・ダ・カッチャ、弦、通奏低音

第1曲 コラール合唱 [第1節] 変ホ長調

Wachet auf, ruft uns die Stimme
der Wächter sehr hoch auf der Zinne
wach auf, du Stadt Jerusalem!
Mitternacht heißt diese Stunde;
sie rufen uns mit hellem Munde:
wo seid ihr klugen Jungfrauen?
Wohl auf, der Bräut'gam kömmt;
steht auf, die Lampen nehmt!
Alleluja!
Macht euch bereit
zu der Hochzeit,
ihr müsset ihm entgegen gehn!

目覚めよ、とわれらに声が呼びかける、
見張りらは遥か高き望楼より、
目覚めよ、エルサレムの町よ！と。
時は真夜中、
見張りらは明るい口調で呼びかける。
賢い乙女はどこにいるか、と。
いざ、花婿が近づく。
立ち上がれ、明りを取れ！
ハレルヤ(ヘブライ・主を讚美せよ)！
備えよ
婚礼に、
花婿を迎えるべし！

第2曲 レチタティーヴォ(テノール)

Er kommt, er kommt,
der Bräut'gam kommt!
Ihr Töchter Zions, kommt heraus,
sein Ausgang eilet aus der Höhe
in euer Mutter Haus.
der Bräut'gam kommt, der einem Rehe
und jungen Hirsche gleich
auf denen Hügeln springt
und euch das Mahl der Hochzeit bringt.
Wacht auf, ermuntert euch!
Den Bräut'gam zu empfangen!
Dort, Sehet, kommt er hergegangen.

彼は来る、彼は来る、
花婿がやって来る！
シオンの娘達よ、出ておいで、
高いところから出たお方が
おまえたちの母の家へと急いで来る。
花婿は来る、彼はかもしかのように、
あたかも若い鹿のように
丘を躍り越え、
おまえたちに婚礼の祝宴を運んで来る。
目を覚ませ、心を昂らせて
花婿を迎えるのだ！
そこをごらん、花婿がこちらに来る。

第3曲 二重唱アリア(ソプラノ、バス) ハ短調

S: Wenn kömmt du, mein Heil!
B: Ich komme, dein Teil.
S: Ich warte mit brennendem Öle.
B: Ich öffne den Saal,
S: Eröffne den Saal,
S&B: zum himmlischen Mahl.
S: Komm, Jesu!
B: Ich komme;
komm, liebliche Seele!

いついらっしゃるのですか、わが救いよ。
私は来る、おまえの分身として。
私は油を灯して待っています。
扉を開けよう、
扉を開けてください、
天の宴に通じる扉を。
いらしてください、イエスよ！
私は来る。
おいで、いとしい魂よ！

第4曲 コラール(テノール) [第2節] 変ホ長調

Zion hört die Wächter singen,
das Herz tut ihr vor Freuden springen
sie wachet und steht eilend auf.
Ihr Freund kommt vom Himmel prächtig
von Gnaden stark, von Wahrheit mächtig,
ihr Licht wird hell, ihr Stern geht auf.
Nun komm, du werthe Kron,
Herr Jesu, Gottes Sohn!
Hosianna!
Wir folgen all zum Freudensaal
und halten mit das Abendmahl.

シオンは見張りらの歌うのを聴き、
彼女らの心は喜びに躍り、
目覚めてすばやく立ち出でる。
彼女らの友は天より晴れやかに来たる。
恩恵に濃く、真理に力強く、
その光は明るく、その星は昇る。
いざ来たれ、汝 尊き冠なる
主イエス、神の子よ！
万歳(ヘブライ・救いたまえ)！
我ら皆従い喜びの広間に行き、
晚餐をば祝わん。

第5曲 レチタティーヴォ (バス)

So geh herein zu mir,
du mir erwählte Braut!
Ich habe mich mit dir
von Ewigkeit verraut.
Dich will ich auf mein Herz,
auf meinen Arm gleich wie ein Siegel setzen
und dein betrübt Aug' ergötzen.
Vergiß, o Seele, nun
Die Angst, den Schmerz,
den du erdulden müssen;
auf meiner Linken sollst du ruhn,
und meine Rechte soll dich küssen.

さあ私のところへ入りなさい、
私のために選ばれた花嫁よ！
私はおまえと
永遠の昔から契りを結んでいたのだ。
おまえをこの心と
この腕に、印章のごとく刻みこもう、
そして憂いに沈んだ目を楽しませよう。
忘れなさい、おお魂よ、今こそ
おまえの耐えなくてはならない
煩いと苦痛を。
私の左腕に憩いなさい、
右腕で抱き、キスしてあげよう。

第6曲 二重唱アリア (ソプラノ、バス) 変ロ長調

S: Mein Freund ist mein,
B: und ich bin sein(dein)
S&B: die Liebe soll nichts scheiden.
S: Ich will mit dir
B: Du sollst mit mir
S&B: in Himmels Rosen weiden,
da Freude die Fülle,
da Wonne wird sein.

私の友は私のもの、
そして私は彼(おまえ)のもの。
この愛を誰も分け隔てぬように。
わたしはあなたと共に
おまえは私と共に
天のバラの園で草を食もう。
そこには喜びが満ち、
そこには至福があるだろう。

第7曲 コラール (合唱) [第3節] 変ホ長調

Gloria sei dir gesungen
mit Menschen- und englischen Zungen,
mit Harfen und mit Zimbeln schön.
Von zwölf Perlen sind die Pforten,
an deiner Stadt wir sind Konsorten
der Engel hoch um deinen Thron.
Kein Aug hat je gespürt,
kein Ohr hat je gehört
solche Freude.
Des sind wir froh,
io, io!
ewig in dulci jubilo.

栄光があなたに歌われますように、
人と天使の舌によって、
美わしき豎琴とシンバルの音色も従えて。
門は12の真珠を伴い、
われらもあなたの町で
高きにいます天使と共にあなたの御座を囲もう。
誰も見たことがなく、
誰も聞いたことがない
それほどの喜び。
われらはそれを喜ぶ、
万歳、万歳！
永遠に優しき喜びのうちに。

合唱団メンバー募集

2008年～2009年練習予定曲目

G. F. ヘンデル (2009年没後250年) 「メサイア」

浜松バッハ研究会

練習日: 毎週土曜日 19:00～21:30
会場: 積志公民館
会費: 月額 2,500円
連絡先: 河野周平 ☎053-585-3364

豊橋バッハアンサンブル

練習日: 毎週金曜日 20:00～21:30
会場: 新川小学校
会費: 月額 1,500円
連絡先: 安井研一 ☎0532-47-0676

《ミサ曲イ長調》BWV234

初演	不明
歌詞	ラテン語(発音はドイツ式を使用)
原曲	・第2曲 《イエス・キリストをおぼえよ》BWV67 (1724年) 第6曲 ・第4曲 《心せよ、汝の敬神いつわりならざるや》BWV179 (1723年) 第5曲 ・第5曲 《主なる神は太陽にして楯なり》BWV79 (1725年) 第2曲。 ・第6曲 《神よ、われを調べ、わが心を知りたまえ》BWV136 (1723年) 第1曲。
編成	独唱(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、4部合唱、フルート2、弦、通奏低音

1. Kyrie

Kyrie, eleison.
Christe, eleison.
Kyrie, eleison.

第1曲 キリエ

主よ、憐れんでください。
キリストよ、憐れんでください。
主よ、憐れんでください。

2. Gloria

Gloria in excelsis Deo.

Et in terra pax

hominibus bonae voluntatis.

**Laudamus te, benedicimus te,
adoramus te, glorificamus te.**

Gratias agimus tibi

propter magnam gloriam tuam.

第2曲 グロリア

いと高きところでは神に栄光あれ。
そして地上では善意の人々に平和あれ。

あなたをお誉めします、あなたを讃えます、
あなたを拝みます、あなたを崇めます。

あなたに感謝を捧げます、
あなたの大いなる栄光のゆえに。

3. Domine Deus (Basso)

Domine Deus, Rex coelestis,

Deus Pater omnipotens.

Domine Fili unigenite, Jesu Christe.

Domine Deus, Agnus Dei, Filius Patris.

第3曲 ドミネ・デウス(バス独唱)

神なる主、天の王、

全能の父なる神よ、

主の独り子、イエス・キリスト。

神なる主、神の小羊、父の御子。

4. Qui tollis (Soprano)

Qui tollis peccata mundi,

miserere nobis.

Qui tollis peccata mundi,

suscipe deprecationem nostram.

Qui sedes ad dexteram Patris,

miserere nobis.

第4曲 クイ・トリス(ソプラノ独唱)

世の罪を除かれた方よ、

私たちが憐れんでください。

世の罪を除かれた方よ、

私たちの願いを聞き入れてください。

父の右に座られる方よ、

私たちが憐れんでください。

5. Quoniam (Alto)

Quoniam tu solus sanctus,

tu solus Dominus,

tu solus altissimus, Jesu Christe.

第5曲 クオニウム(アルト独唱)

それはあなただけが聖であり、

あなただけが主、

あなただけが最も高い、イエス・キリスト。

6. Cum Sancto

Cum Sancto Spiritu

in gloria Dei Patris, amen.

第6曲 クム・サンクト・スピリトゥ

聖霊とともに

父なる神の栄光のうちに、真に。

カンタータ第 147 番《心と口と行いと生きざまをもって》BWV147

初演 1725 年 7 月 2 日 (マリアの訪問の祝日)
歌詞作者 ザーロモ・フランクが第一部を担当(ドイツ語)
福音書章句 ルカ伝 1.39-56
使用コーラル マルティン・ヤーン「イエスよ、わが魂の至福よ」
編成 独唱(ソプラノ、アルト、テノール、バス)、4 部合唱、トランペット、オーボエ 2、
オーボエ・ダ・カッチャ 2、弦、通奏低音

第一部

第 1 曲 合唱 ハ長調

**Herz und Mund und Tat und Leben
muß von Christo Zeugnis geben,
ohne Furcht und Heuchelei,
daß er Gott und Heiland sei.**

心と口と行いと生きざまが
キリストの証を与えてくれるだろう、
恐れも偽善もなしに、
キリストこそ神であり救い主である、と。

第 2 曲 レチタティーヴォ (テノール)

Gebeinedeiter Mund!
Maria macht ihr Innerstes der Seelen
durch Dank und Rühmen kund;
sie fängt bei sich an,
des Heilands Wunder zu erzählen,
was er an ihr als seiner Magd getan.
O! menschliches Geschlecht,
des Satans und der Sünden Knecht,
du bist befreit
durch Christi tröstendes Erscheinen
von dieser Last und Dienstbarkeit!
Jedoch dein Mund und dein verstockt Gemüte
verschweigt, verleugnet solche Güte;
doch wisse, daß dich nach der Schrift
ein allzu scharfes Urteil trifft.

祝福された口よ！
マリアは魂の深奥にあるものを
感謝と讃美をこめていいあらわした。
彼女はおのが身に即して
救い主の不思議な業を語りはじめた、
主が婢女である自分になされたことを。
おお、人類よ、
悪魔と罪のしもべよ、
お前は解放されたのだ、
キリストの心慰める出現によって、
重荷と隷属から！
それなのに、お前の口とかたくなな心は
沈黙し、これほどの慈しみを拒んでいる。
だが知るがよい、聖書によれば、お前に
あまりにも厳しい裁きが下ることを。

第 3 曲 アリア (アルト) イ短調

Schäme dich, o Seele, nicht,
deinen Heiland zu bekennen,
soll er dich die Seine nennen
vor des Vaters Angesicht!
Doch wer ihn auf dieser Erden
zu verleugnen sich nicht scheut,
soll von ihm verleugnet werden,
wenn er kömmt zur Herrlichkeit.

恥じるな、おお魂よ、
救い主を言いあらわすことを、
もしも救い主に自分をわがものと
父の御前で呼んでほしいのならば、
この世で救い主を
拒んではばからぬ者は、
救い主に必ずや拒まれるだろう、
彼が栄光の座におつきになる時。

第 4 曲 レチタティーヴォ (バス)

Verstokkung kann Gewaltige verblenden,
bis sie des Höchsten Arm vom Stuhle stößt;
doch dieser Arm erhebt,
obschon vor ihm der Erden Kreis erhebt,
hingegen die Elenden, so er erlöst.
O hochbeglückte Christen,
auf, machet euch bereit,
itzt ist die angenehme Zeit,
itzt ist der Tag des Heils:
Der Heiland heißt euch Leib und Geist
mit Glaubensgaben rüsten,
auf, ruft zu ihm in brünstigem Verlangen,
um ihn im Glauben zu empfangen.

かたくなさはともすれば権勢ある者を盲目にし、
ついには至高者の腕が彼らを位から引き下ろす。
その御腕が高めるのは、
たとえ全地が御前で震えても、
心ある貧しい人々のみ救い主はあがなわれる。
高き幸いにあずかるキリスト者たちよ、
さあ備えなさい、
今こそ望ましい時、
今こそが救いの日。
救い主は肉体と霊を、
信仰の賜物をもって装うことを命じられる。
さあ、憧れを燃え立たせて救い主に呼びかけ、
堅い信仰のもとに彼を迎えなさい！

第 5 曲 アリア (ソプラノ) ニ短調

Bereite dir, Jesu, noch itzo die Bahn,
mein Heiland, erwähle die gläubende Seele
und siehe mit Augen der Gnaden mich an.

備えよ、イエスよ、今もなおあなたの道すじを。
救い主よ、この信じる魂を選んでください。
そして恵みの眼で私をご覧ください。

第6曲 コラール (合唱) ト長調

Wohl mir, daß ich Jesum habe,
o wie feste halt' ich ihn,
daß er mir mein Herze labe,
wenn ich krank und traurig bin.
Jesum hab' ich, der mich liebet
und sich mir zu eigen giebet;
ach drum laß ich Jesum nicht,
wenn mir gleich mein Herze bricht.

イエスと共にいる私は幸である、
おお私は何と固くイエスを守るか、
イエスは私の心を慰めてくださる、
病める時も悲しい時も。
私はイエスと共に居て、イエスは私を愛し、
私に身を委ねてくださる。
ああ、だから私はイエスを放さない、
たとえ私の心が張り裂けそうな時にも。

第二部

第7曲 アリア (テノール) ヘ長調

Hilf, Jesu, hilf,
daß ich auch dich bekenne
in Wohl und Weh,
in Freud und Leid,
daß ich dich meinen Heiland nenne
im Glauben und Gelassenheit,
daß stets mein Herz von deiner Liebe brenne.

助けてイエスよ、助けてください、
この私もあなたを言い表せるように、
幸いの時にも災いの時にも、
喜びの時にも悲しみの時にも、
私があなただけを救い主と
信頼と落ち着きの中で呼べるように。
この心がいつもあなたの愛で燃え上がるように。

第8曲 レチタティーヴォ (アルト)

Der höchsten Allmacht Wunderhand
wirkt im Verborgenen der Erden.
Johannes muß mit Geisterfülle werden,
ihn zieht der Liebe Band
bereits in seiner Mutter Leibe,
daß er den Heiland kennt,
ob er ihn gleich noch nicht
mit seinem Munde nennt,
er wird bewegt, er hüpfet und springet,
indem Elisabeth
das Wunderwerk ausspricht,
indem Mariae Mund
der Lippen Opfer bringet.
Wenn ihr, o Gläubige,
des Fleisches Schwachheit merkt,
wenn euer Herz in Liebe brennet,
und doch der Mund den Heiland nicht bekennet,
Gott ist es, der euch kräftig stärkt,
er will in euch des Geistes Kraft erregen.
ja, Dank und Preis auf eure Zunge legen.

いと高き全能者の不思議な手は、
世界のひそみに働く。
かくて、ヨハネは霊に満たされた。
愛の絆が彼を、
母の胎にいるときからつないでいた。
だからヨハネは救い主を知っていた、
いまだその御名を
自らの口で言い表わすことこそなかったが。
ヨハネは動き、跳ね、躍った、
エリザベトが
不思議な業のことを語り出し、
マリアの口が、
唇の捧げものを献上した時。
おお、信ずる者たちよ、
お前たちが肉の弱さに気づく時、
まだ心が愛に燃えているのに
口が救い主を言い表わそうとしない時、
われわれを支え、力づけてくれるのは神である。
神はお前たちのうちに霊の力を喚起し、
感謝と讃美を、下からほとばしらせてくださる。

第9曲 アリア (バス) ハ長調

Ich will von Jesu Wunder singen
und ihm der Lippen Opfer bringen,
Er wird nach seiner Liebe Bund
das schwache Fleisch, den irdschen Mund
durch heilgen Feuer kräftig zwingen

イエスの不思議な業をほめ歌い、
彼に唇の捧げ物を献上しよう。
イエスは愛の契りに従い、
弱い肉と、世に汚れた口とを
聖なる炎で奮い立たせてくださるだろう。

第10曲 コラール (合唱) ト長調

Jesus bleibt meine Freude,
meines Herzens Trost und Saft,
Jesu wehret allem Leide,
er ist meines Lebens Kraft,
meiner Augen Lust und Sonne,
meiner Seele Schatz und Wonne;
darum laß ich Jesum nicht
aus dem Herzen und Gesicht.

イエスは常に私の喜び、
私の心の慰め、活力、
イエスは全ての悲しみを防いでくださる、
イエスこそ私の生命の力、
私の目の喜び、そして太陽、
私の心の宝、そして楽しみ。
だから私はイエスを放さない、
その御心もその御顔も。

ヨーロッパの風を毎日の食卓へ
本場ドイツ製法



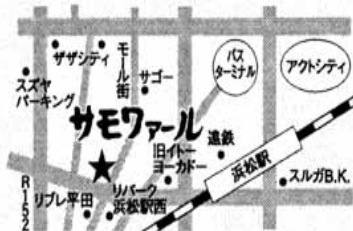
レッカーランド フクカワ 浜松店

浜松市中区西伊場町 53-5 営業時間 10:00-19:00
電話 053-451-3820 URL: <http://www.leckerland.com/>

おかげさまで創業33周年。

ロシア料理レストラン

サモワール



なごだ
浜松市中区平田町58-1

☎&FAX 053(453)6507

URL <http://www.wr-salt.com/samoware>

携帯サイト <http://www.wr-salt.com/samoware/k>

☎11:30~15:00 (14:00オーダーストップ) (休火曜日(祝日は営業))

17:00~22:00 (21:00オーダーストップ) (P)提携(リパーク浜松駅西・リブレ平田)

一級光学士・眼鏡士の店
創業1905年

(有) 至誠堂めがね店

ザザシティー 西角 AM 9:00~PM 7:00

<053>452-6219 水曜定休

ヤマハグループ



JOYWELL

株式会社ジョイエルホーム TEL053-465-5011

〒430-0919 浜松市野口町406番地 土・日も営業 (祭日は休業)
営業時間朝9時~夕方6時

[営業内容] 新築/増改築/リフォーム/エクステリア/不動産

serai

真の美を求め、
至福の時に身をゆだねる。

<http://www.mh-serai.com>

※当店ご利用の際は事前にお電話にてご予約下さい。本体験価格は1人1回30分以内を頂きます。

今話題の「骨盤デトックス」で、下半身集中痩身&体質改善!
骨盤デトックスセラピー

「骨盤デトックスセラピー」は、デコルテと下半身の集中デトックスマッサージに、最新の骨盤エクササイズを加えた、痩身&体質改善コース。骨盤の歪みが原因といわれている、肥満や冷え性・便秘・下半身太りやタルミを改善し、ブリッとスリムなボディラインを作ります。

本格的インドエステで驚異の痩身!

インドエステ(痩身+体質改善)

伝承医学に基づいた「インドエステ」は、体質に合わせたアロマジェルでの全身ハンドマッサージで、血液循環、リンパの流れを促進し、ゲルマ&タラソ温浴との相乗効果で、溜った老廃物を排泄、体内脂肪を減らす事で、体質を改善しながらウェイト&サイズダウンが同時に可能。セライが一番人気、結果重視の痩身メニューです。

※お悩み相談 冷え性・肩こり・便秘・肥満・不眠症・更年期障害・体臭・体脂肪がなかなか落ちない・むくみやすい、等でお悩みの方。

肌を10年若返らせる!シミ・シワ・タルミ・ニキビを徹底解消!



深層再生コース

特にひどいニキビ・シミ・シワ・ソバカス・タルミでお悩みの方には、プチ整形にも匹敵すると話題の、「深層再生コース」がオススメ。専門スタッフが責任をもってご相談を承り、実施します。「肌が10年若返ったよう」と、お客様から喜びの声を頂いている大反響のコースです。

体験コースご利用特典

上記、体験コースをご利用のお客様は、「岩盤浴」・「ゲルマ&タラソ温浴」・「ぶるぶるマシン」のいずれか1コースを1回、無料でご利用頂けます。

無料キッズルーム(託児室)完備

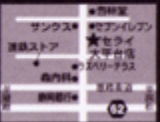
小さなお子様のいるお母様も、安心してお寛ぎ頂けるよう、無料の託児室を併設。有資格者の保育士が、お子様を優しくお世話致します。



メディカル白書 セライ 本店
TEL053-475-2328
〒433-8123 静岡県浜松市中区幸2-5-8・2F (駐車場・託児室完備)
月・木・土/9:30~18:00 (火・水・金/ナイター営業) 日曜



メディカル白書 セライ 大平台店
TEL053-485-8234
〒432-8068 静岡県浜松市西区大平台2-17-23 (駐車場・託児室完備)
月・木・土/9:30~18:00 (火・水・金/ナイター営業) 日曜



♪ 緑陰に立つ小さな音楽サロン ♪



奏者と聴き手が一体となる、夢のひとつとき

- ・サロンコンサート
- ・音楽教室発表会
- ・リハーサル室
- ・講演会
- ・パーティー会場 等々にご利用下さい



コンサートサロン

Yume・Hiro Hall

浜松市中区富塚町 4710-9

Tel. 053-458-0016 (松井)

e-mail: musokukan@ybb.ne.jp

スクランブル
音楽と笑顔の交差点。

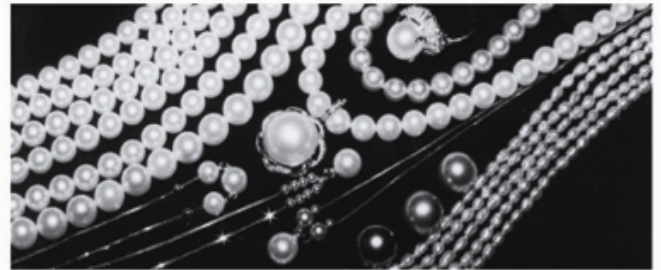
聴く・感じる・演奏する、そして学ぶ...。
音楽をおとして得られる、楽しみ・喜び・感動をお届けする、
音楽を愛するすべての人のための
ミュージックコミュニティです。

- プレイガイド ●かじまちホール ☎053-454-4432
- 管・打楽器・アコースティックギター ☎053-454-4077
- 鍵盤楽器・弦楽器・クラシックギター ☎053-454-2770
- 楽譜・楽書・CD ☎053-454-4419
- 音楽教室・英語教室 (かじまちセンター) ☎053-456-9216
- 店舗 / AM 10:30~PM 7:00 ※水曜定休



YAMAHA 株式会社 ヤマハミュージック東海 浜松店
〒430-0933 浜松市中区殿町321-6 ☎053-454-4111 / ☎053-456-1829

創業 34 年 店内工房にて オリジナルジュエリー製作 加工



国家検定一級技能士・静岡県技能協会加盟・浜松商工会加盟

ジュエルアート KASUYA

〒432-8002 浜松市中区富塚町 3 8-1

TEL 053-472-3068

http://www.h3.dion.ne.jp/~j-kasuya



「高貴な白」

Edelweiß

医療法人 社団 明徳会

介護老人保健施設

エーデルワイス

●入所：150床 ●通所：60名

〒434-0041 静岡県浜松市浜北区平口2405

TEL 053(585)1500 FAX 053(585)1501

ホームページ <http://www.e-del.jp> メールアドレス info@e-del.jp